



進言

特定非営利活動法人
とくしま障がい者就労支援
協議会理事長

松下 義雄

働く障がい者の工賃向上への想い

私の施設で働く利用者の方に毎年度、支援について満足度調査を実施している。その中で、工賃について6割以上が「月5万円以上ほしい」と回答している。ある女性の利用者に「工賃で何をしたいか」と聞くと、「お母さんを旅行に連れていきたいです」と答えた。こんなささやかな想いの実現に「きちんと応えられているのだからか」——。気持ちを揺り動かされる瞬間であった。

国は福祉施設（就労継続支援B型）で働く障がい者の工賃向上に取り組んでいるが、全国平均工賃（平成29年度）は約1万5千円（月額）であり、障害基礎年金と合わせても、自立して生活できる額にはまだ至っていないのが現状である。

私が理事長を務める「とくしま障がい者就労支援協議会」は平成19年度に法人化され、福祉施設で働く障がい者の工賃向上の取り組みを開始し、平均工賃（平成29年度）は約2万1千円（月額）と、現在全国第2位である。さらに1位を目指し、県とも連携し、工賃向上に取り組んでいる。

例えば、①第3期工賃向上計画（平成30～32年）の策定および経営コンサルタントによる企業的な経営手法の導入②製品のブランド力向上のための指導、共同販売会の実施③農業分野での就労支援、障がい者が農業の支え手として地域を支え、地域で活躍する社会の実現——等である。

このように、工賃向上への取り組みを通じて利用者、施設、地域がつながり、社会で支え合う仕組みをつくることが願いであり、「awanowa（つながる）ブランド」として、利用者が作った商品の価値を高めていくことを目指している。